

○公開講座がありました

第1回講座 「障害のある児童生徒の授業づくりにおける

教育目標、教育評価のあり方について II」

講師： 鳥取大学 教授 三木 裕和 先生

三木先生には、養護学校に長く勤務されたご経験をもとに、子どもたちの「もっといい自分になりたい」「今のままで自分を愛してほしい」という願いをしっかりと受け止め、体をとおして心に働きかけることの大切さをお話いただきました。先生と子どもたちの心通い合う様子が映し出されたスライドや心温まるエピソードの数々に、2時間があっという間に感じられました。今回の講座では、本校職員および外部の幼小中高等学校や特別支援学校から120名以上の参加がありました。アンケートには、「本人が言いたいこと(気持ち)を本人の身になって意味づけることの大切さを身をもって感じています。」「子どもの表出に授業者として行った意味づけが本当にこれでよかったのかと思うこともあります。子どもたちが楽しいと感じられることをこれからもやっていきたいと思いました。」など、2学期からの実践への抱負や感想が寄せられました。(7月31日)



第2回講座 (早島支援学校との共同開催)

「見ることへの配慮の必要な児童・生徒の指導

～視覚を通じた環境の把握とコミュニケーション～」

講師： 国立特別支援教育総合研究所 齊藤 由美子 先生

齊藤先生は、障害の重い子どもが主体となる生活や学びを支える支援について、研究を深めてこられた先生です。重度の障害のある子どもとの初期的なコミュニケーションでは、「どこ?」「なに?」「だれ?」が分かること等の環境の把握が大切です。本講座では、視覚を通じた環境の把握について焦点を当てながら、豊かなコミュニケーションを育むための支援のあり方について、齊藤先生とともに考えることができました。参加者からは、「子どもの視点に立って、授業づくりをすることが大事なのだと分かりました。」「子どもからの発信がなかったのではなく、私が気付いていなかったのではないかと考え直すことができました。」「どんなに重い障害があっても、伝えようと発信しているというお話には、これまでの反省とともに、これからの課題になりました。」等の真摯な感想が寄せられました。(8月27日)



○スクールカウンセラーを講師にお招きして研修しました

8月21日(金)本校の教職員を対象に「障害の重い生徒の理解(てんかん発作について)」と題して、主にてんかん発作のある生徒の理解と対応について研修しました。カウンセラーの佐田さんは、以前病院でも勤務されており、脳神経の分野にも広い知識をおもちの方です。

今回は高等部の生徒をケースに挙げ、その生徒の生活や学習の様子から「得意なこと」や「改善すれば生活が快適になること」について取り上げました。それについて、佐田さんから障害に起因すると考えられる点を教えていただき、改善を図るための方向性や配慮点についてもうかがうことができました。表面に見える生徒の状態を改善していこうとする視点からだけでなく、その原因を知って必要な支援や対応を考えていくことが重要で、そのためには保護者を通じて医療と連携することも大切だということをお教えいただきました。

○2学期以降のスクールカウンセラーの来校日

対象：児童生徒本人、または保護者

日程： 9月 18日(金)

10月 16日(金)

11月 20日(金)

12月 18日(金)

1月 15日(金)

2月 19日(金)

3月 18日(金)

(いずれも午前中)

佐田さんは穏やかな人柄で、話を聞いていただくだけで、心が癒されると思います。どんな悩みでもお気軽にご相談ください。もちろん相談内容は、佐田さん以外には知られないようにいたしますので、どうぞご安心ください。

相談希望の方は担任にお知らせください。

(時間調整が必要な場合もあります。)

○図書紹介

『発達障害児の思春期と二次障害予防のシナリオ』

小栗正幸/著

ぎょうせい

2,057円(税込み)



発達障害が原因でおこる失敗や挫折の繰り返しから、感情や行動にゆがみが生じ周囲を困らせる行動をとってしまうことがあります。その行動の現れ方と非行化するプロセスとは驚くほど類似性があるのです。少年非行の現場で多くの発達障害児にも接してきた著者が、非行化のメカニズムの解説をもとに、二次障害の予防と対処を豊富な事例をあげて、わかりやすく紹介します。

二次障害予防のための具体的な支援の方法を、学習面・生活面から紹介しています。



「約束指導」をはじめ、実際場面での指導に役立つ方法を、具体的に紹介しています。

本書で扱う対処法・支援法は、思春期の子どもを抱え、子育てに悩む保護者の方にもお勧めです。